

81 おおば せきぞう 姫の石像



指 定 市有形文化財 昭和58年 3 月25日
 所在地 下小田切
 所有者 下小田切区



おおば せきぞう
 姫の石像の祀られているおおばどうは北川、下小田切、勝間の3つの大字界に位置し、古くはここは「うばが塚」と呼ばれた。寛永6年（1629）の下小田切検地帳にも小字「うばが塚」が載っている。ここを土地の人は一里塚と呼んでいる。ここに古墳があり、傍らに榎があったが昭和53年（1978）8月の強風でこの大木は倒れ、この際、姫堂も破壊され、昭和59年（1984）4月に再建された。この堂は下小田切村の真光寺が管理していたが、文化年間には住職が不在で、湯原村長命寺住職がこの寺の住職を兼務し、文化5年（1808）から各村に寄進を勤仕し嘉永4年（1851）に堂を修築した。

堂内には2体の姫の石像がある。1体は首と手足の欠けた古像で、他は左肩に「延宝元年癸丑十月十六日」右肩に「祀母小田切」と刻まれている。

姫とは奪衣姥である。人が死んで三途の川を渡るとき亡者の衣をはぐ姫である。はいだ衣は川のほとりの衣領樹の上にいる懸衣翁がうけとり枝にかけて生前の罪の軽重をはかるという。

死後の苦しみを免れるために姫を祀ったとも思われ、また姫を拝むと風邪がなおるとか、安産に効験があるとか、子供の夜泣きをとめるとかの信仰から祀ったものとされる。